



大阪府保育士会だより

# ほほえみ

令和4年  
9月1日

131号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

## 明日から実践!!

### キャリアアップ研修 「幼児教育分野」

6月14・21・28日の3日間  
にわたり TKP 心齋橋駅前カンファレンスセンターで「保育士等キャリアアップ研修（幼児教育）」を集合型で開催しました。講師は神戸松蔭女子学院大学教育学部の寺見陽子教授をお迎えし78名が参加しました。



初日の講義では「幼児教育の意義」と「幼児教育の環境」を学習しました。幼児にふさわしい生活づくりとして①物的環境②人的環境③くつろいだ雰囲気づくり④保健と安全⑤保育者の工夫と援助、を考慮し子どもが好奇心や興味・関心をもって自発的に環境に関わり体験・経験を通して学ぶ、子どもにとって意味のある環境の重要性に保育の環境とお話しされていました。

受講者の方々に個々の園での環境について、情報交換の



場をもうけ、1日目は終了いたしました。

2日目の講義では、「幼児の発達に応じた保育の内容」と「幼児教育の指導計画と記録および評価」を学習しました。

幼児期の教育のありかたとして、前回学んでいる環境の重要性につながり、年代ごとの成長、発達に合わせた、環境づくりが必要とお話しされました。

また、生きる力の基礎の構造として①健康②人間関係③環境④言葉⑤表現の5つの領域を学びました。指導計画や記録のとり方



⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり、生命尊重⑧数量・図形・文字等への関心・感覚⑨言葉による伝えあい⑩豊かな感情と表現の10の姿の説明がありました。

どの講義も、先生から海外の保育についてや、実際のエピソードなどなど、まだまだ聞いていたくなる内容で、アツという間に時間が過ぎてしまいうくらいでした。受講者の方からは、もっとお話を聞きたかった。いろんな手法を教わったので、実践していきます。他の園の方と情報交換できて、参考になりました。と感想があり、明日へつながりました。

(事務局)

最終日は、前回からの引き続き「幼児教育の指導計画および評価」と「小学校との連携・接続」を学習しました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性規範意識の芽生え



## 0, 1, 2歳児の造形活動の見直しから

- ・季節、行事をテーマにした制作  
・壁面装飾・ぬり絵 など
- 
- ・なぐり描きやスタンプしたものを  
型切り取って飾る。目だけ描く  
・できないところは保育者がする  
(子どもの作品を保育者が加工)
- 
- ・これが本当に子どもの表現?  
・子どもの手を借りているだけ?

保育者主体→子ども主体となるように。子どもの表現を読み取り、内容を考えていく。  
子ども主体とはどのようなものがあるか?

## 2歳児の造形活動

いろいろな素材を使った造形あそび

- ・なぐり描き
- ・シール貼り
- ・シール貼り+なぐり描き
- ・しかけのある紙に
- ・大きい紙に
- ・小さい紙に
- ・絵の具を使って
- ・はさみを使って
- ・のりを使って
- ・挟み込み
- ・版あそび
- ・ひも通し など

### 2歳児の造形活動の中で見えてきたこと

- ★指先を使って、いろいろなことに挑戦!
- ★その子なりの“こだわり”がいっぱい!
- ★積んだり並べたり組み合わせたりといった構成遊びが大好き!
- ★「見立て遊び」「つもり遊び」「簡単なごっこ遊び」が盛ん
- ★友達と積極的に遊び始めるが、けんかやいざこざも増える
- ★同じ場所・モノで同じ遊びをする並行遊びだけでなく、モノを介して人と関わることの楽しさも感じ始めている

### 人的環境としての保育者のかかわり方

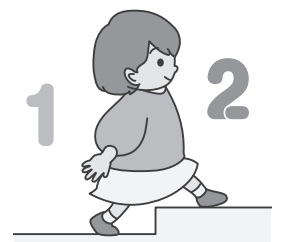
- ★「待つ」「見守る」「受容する」「共感する」「応答的に関わる」
- ★子どもの見つけた遊びが深まったり広がったりするように「援助」する一人ひとりへの援助、モノの量の加減、展開に必要なモノを加える、環境の再構築など
- ★遊びを見つけれない子どもへの「援助」  
遊びに誘う、遊びの提案、一緒に遊ぶ、保育者の一人遊び、遊びをしかける  
例：いつまでたっても遊びを見つけれない子、人の物を壊しに行く子、、、  
そういう子のそばで保育者が楽しそうに遊んでみてその場を離れるとさりげなくその子が続きをしたりする。
- ★子どもと子どもの気持ちをつなぐ役割を担う  
例：取った子、取りに行った子、、、叱るだけでなく共感してあげる。「欲しいよね」「大事やね」同じ形のものを取った子に渡して、「これ1つあげようか?」と取られた子に渡すように促す。取られた子は「ありがとう」と笑顔になる。子ども同士をつなぐチャンスだと思っ  
て関わる。

### 0・1歳児の造形

- ・「指導」によって育てようとするものではない。
- ・子どもが自分で遊びを見つける。
- ・子どもが思わずやってみたくなる。
- ・子どもの興味・関心、発達の実情、生活の様子に合わせたモノと場を用意する。  
「環境による保育」

### 2歳児の造形

幼児クラスへの移行期  
これらを基本としながら、指導の内容や方法も考える必要があるのでは。



### 0歳児からの造形あそび

- 探索活動や試行錯誤を繰り返しながら、体全体を使っていろいろな事柄を経験する。(体で感じる直接体験)
- 
- 「探求心」「思考力」「集中力」「意欲的な態度」「自信」  
「豊かな感性」 遊び・学び・生活

## 研修レポート 7月保育士研修

日 令和4年7月12日(火)  
時 午後2時～4時半

テーマ

## 2歳児の造形活動

～子ども主体の楽しい遊びとなるために～



講師  
村田 夕紀氏  
(造形教育研究所)

会場OMM 77名受講しました。

## 学び

### ★遊びの中で、自ら学ぶ

探索活動や試行錯誤などを繰り返す中で、子どもが自分で気づいたり発見したりする。

### ★指導を通して学ぶ

指導の中で、用具の使い方や素材の扱い方などを知ること、それらを使う楽しさを感じ、自分なりの表現へと向かう。

- 興味・関心、発達の実情に合わせた内容を指導。
- 子どもの思いに寄り添った指導や援助。
- 行き過ぎた指導や指示になって表現の幅を狭めないこと。

## 2歳児の造形活動

- ・いろいろなモノに触れ体感する中で、自分なりの表現を見つけて楽しむ活動
- ・モノを介して人と関わる活動



- ・自らの表現に向かうことで「主体性」を育てる
  - ・人と関わることで「コミュニケーション能力」を高める
- 自分なりの表現を見つけて楽しみ、人との関わりも深まる造形遊び。子ども主体を心掛け普段からの保育に取り入れ、子どもたちの育ちのサポートをしていけると良いですね。

## なぐり描き 基本

- ・落ち着いた環境の中で
- ・八つ切り（四つ切りは2歳児には少し大きい。子どもの肩幅と同じくらい）
- ・白画用紙（様子を見て、時には画用紙の色や形、大きさを変える）
- ・1色のみ（よく見える色・集中してじっくり取り組んでほしい場合には、色の多さに気を取られないように1色のみに）

★たくさんなぐり描きをする機会を。どんどん成長していく。（個人差はある）

2歳児は言葉を習得していく時期なので、意味づけをし、おしゃべりを沢山しながら向き合っていくことが大切。

★なぐり描きが急激に変化した時→子どもの心の変化に要注意  
子どもの変化に気づける【記録カード】の活用

記録カード	記録カード〇年〇月〇日	
	名前	
	活動の内容	好きな色のクレヨンを1本選び、描きました。
	活動の様子	手首や指先をうまく使って、円環を余白に次々と描き、その中に小さなグルグルを入れています。隅に印を付けて「できた!」とうれしそうな笑顔を見せてくれました。
	日頃の様子	ひも通しやシール貼りなど、指先を使った遊びが大好きです。じっくりと落ち着いて取り組む姿がよく見られます。

## シール貼り

その子なりの“こだわり”を持って楽しむ。ばらばらに貼ったり、一カ所に、一直線などそれぞれ特徴あり。誘導せずどんな貼り方をするのか見守る。

### ◎シール貼り+なぐり描き

- ・“しかけ”ある紙に
- ・いろいろな物の形状に興味を持ち始めたら“しかけ”ある画用紙を用意
- ・保育者が誘導したり、指導したりするのではなく用意した“しかけ”に子どもたちがどう関わるか楽しみにゆったりと見守る。
- ・同じ“しかけ”でも子どもたちの反応はさまざま。一人ひとりの子どもの行為を読み取っていくことで、その子のこだわりや思いが見えてくる。子どもを理解するためのヒントがいっぱい。

### ◎大きな紙にみんなでワイワイ

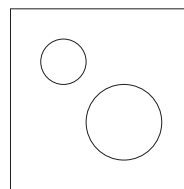
- ・模造紙をつなげ、床いっぱいに広げて、なぐり描き、シール貼り、“しかけ”のある紙に、、、と子どもの興味に合わせて取り組む

### ◎小さい紙に繰り返す

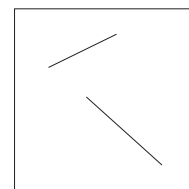
- ・ペンで描く、シールを貼るといった活動を繰り返す中で、色々な展開が見られる。子どもの思いに寄り添い一人ひとりの表現をしっかりと受け止める

例：お家を作る、紙をたたむなど「これ僕の」「〇〇ちゃんの」と大切に。2歳児のこだわりも出る。

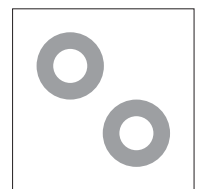
お迎えの時にお母さんにその大切な作品を見せて話を。引き出し、ロッカーになおしたり、出し入れするなどの遊びの展開を見守り、子どもが必要としたら、ティッシュケースの引き出しを用意するなど→子ども主体



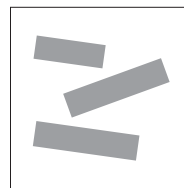
丸を描く



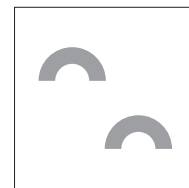
線をひく



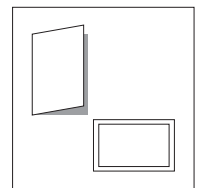
折り紙を貼る  
(ドーナツ)



テープを貼る



アーチをかける



扉をつける



# 保育士派遣事業

今年度、すでに3件の養成校へ行ってきましたので紹介します。

## 四條畷短大2年生

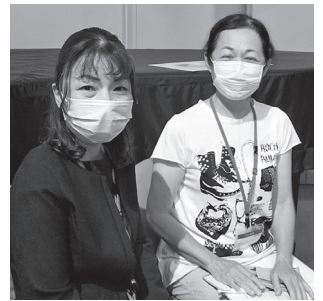
6月7日、四條畷学園短期大学保育学科の2年生100人を対象にした就職講座に光の峰保育園の勝副園長、木元主任、木元保育士の3人が、保育の仕事の魅力を伝えてきました。



との接し方、手あそびやペーパーアートなどを使いながら子どもたちの興味を引き出す手法など映像を取り入れ子どもたちの「うれしい」「楽しい」を工夫して伝えました。

また、学生が不安に感じるピアノやクラスだよりの作成についても、無伴奏での歌唱や手あそびで、クラスだよりの作成は、文章が苦手でも絵や写真の活用など実際のクラスだよりを披露するなどして学生たちの不安が和らぐよう説明をしました。

特に、給与や有給の取得、残業や福利厚生など実際には聞きにくいところも丁寧に説明。学生からは、「貴重な話をたくさん聞けて良かった」、「不安に思っていることをほとんど聞くことができていることを勉強になった」、「自分のできることを一生懸命に頑張りたい」など「保育士になりたい」という気もちに背中を押せたように思います。



## 桃山学院教育大3年生

6月30日には、桃山学院教育大学人間教育学部の3年生24人を対象に「子育て支援」を主題にして、「地域子育て支援センターの役割」を南海愛児園の池邊園長が「支援が必要な家庭とのかかわり」を西信達くねあの坂上主幹がそれぞれ講義しました。

ンターを利用しているお母さん方が先生となって得意なことをレクチャーすることや、ママカフェでママ友をつくったりされることなどがあるなど紹介しました。

坂上主幹も、最初に自園の子どもたちが地域の方と関わっている笑顔の写真を紹介し、「支援が必要な家庭とのかかわり」として、個々に問題を抱えられている親子への対応はデリケートな部分も多くしつかり相手の気もちや行動をくみ取りながら、支援をしていく必要があると事例を紹介しました。

親御さんの都合で、なかなか通園できなかった園児に対して、家まで迎えに行ったり、クラスでのともだちづくりのタイミングをはかったり、長い年月をかけ支援してきた事例については、迎えに行くことで、家でのようすや、保護



まず、池邊園長から日々の子どもたちのようすや保育士のかかわりを写真等で紹介しながら保育士の仕事の魅力を伝えました。地域子育て支援センターについては、行政や地域と連携して乳幼児期の親子を支えあっていること。その中で園庭開放や、専門分野の先生から応援を受けながら実施する親子でのヨガや運動遊び、季節の行事などを説明。企画の内容によっては、セ



者自身の本当の気もちなど、本場に必要ない支援に気づけたこと。ケースによっては行政との連携が必要であることなども付け加えました。

学生たちも、リアルな事例により真剣に話を聞いていた姿が印象的でした。

## 私立希望の桃大3年生

7月19日には、桃山学院教育大学人間教育学部の3年生のうち、私立の保育園・認定こども園での就職を考えている学生7人の質問に答える対話型講義を行いました。

この日は、国分保育園から伊藤園長と春木保育士、たいよう学院の西島園長と山本保育士の4人が出席しました。まず最初に両園の日常のようすや年内行事をスライドなどで紹介し、参加学生の

緊張をほぐしました。

質問では、ピアノが苦手でも、雇ってもらえますか?に對し、「大丈夫です」「今でも苦手で、仕事しながら練習できますヨ」、また、「得意な先生がいるので、お願いすることもある」とのこと。他の質問にも、飾らない返答に、共感していました。

ステキな社会人をめざして、基本的な常識とお辞儀をレクチャーしていただきましたので、最後はキレイなお辞儀で締めくくりました。

今回の3件はそれぞれテーマも講義の持ち方も違いますが、きつと学生たちの心に保育の仕事の魅力が響いたことと思います。

(事務局)



# 児童精神科医の 保育つれづれ話⑥

かしわ保育園  
施設長

北畑 英樹

## Profile

1943年生まれ、慶應義塾大学医学部卒。  
精神科医、医学博士、日本笑い学会会員。  
著書は「福祉めいげん100話」「子育て  
名言集 子どもは育つ」。

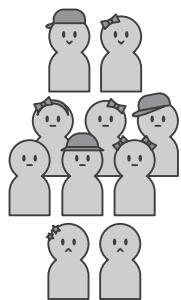
## 2・6・2の法則

私は、ときどきお母さんたちの前で講演することがあります。

最初に、「お子さんの長所を教えてくださいませんか」と何人かに質問すると、多くのお母さんは、恥ずかしそうに下を向いて、ほとんど答えてくれません。

反対に「それでは、お子さんの気になるところは何ですか」と尋ねると、前の質問とは打って変わって「ゲームばかりしている」「弟とケンカばかりしている」「オモチャを片付けない」などなど、多くの発言が続きます。

そこで、私は「日本人は



○より×に焦点を当てて、×を直せば、いい子になると考える人が多いですが、毎日、あれこれと文句ばかり言われていたのでは、子どもたちの自信もつきませんし、お母さんも育児が楽しくなくなりそうです。もともと子どもたちの、いいところ、○の部分を探しましょうよ。皆さん、2・6・2の法則をご存じでしょうか」という話から2・6・2の法則の説明に入ります。

2・6・2の法則というのは、例えば、あなたに10人の仲間がいたとします。

2人とは気が合います。残りの6人は別に好きでも嫌いでもなく、挨拶や仕事上の会話はしますが、いわばノーカウントの存在です。この2・6・2の法則は、多くの事例でも当てはまると言われています。

例えば職場では、職員の2割の人はよく働きますが、反対の2割の人は、あまり働きません。残りの6割の人は、そこそこ働くという図式です。

さて、この2・6・2の法則を子育てに当てはめてみますと、いい方の2も悪い方の2も、その判定基準は、各家庭の環境や両親の育児方針や子ども観などで、開きがあるのは当然のことですし、ある面では、その両親の判定基準により、その子の個性が形成されていくのかもしれない。

しかし、私が問題にしたのは、6の部分、すなわちノーカウントとして、あ

まり取りあげることの少ない部分です。

この6の部分には、病気をしない、食欲があり、よく眠り、よく遊び、機嫌よく保育園に通園しているなどの、基本的かつ最も大切なことが含まれているのですが、大部分の大人たちは、それらは当然のこととして、ほとんど気にすることもありません。

普通はそれでも、特に問題は無いのですが、困るのは、子どもの×の部分ばかり見て、育児不安や育児ノイローゼになっているお母さんに限って、この6の部分を確認しようとしません。

私は、そんなお母さんとのカウンセリングを次のようにしています。

「いろいろとご心配をしておられるようですが、ヒデキ君は病気もしないし、チャンとご飯もたべているし、保育園にも毎日通っているし……これは大きな大きな○ですよ。

われわれ児童精神科医が一番治療に苦労するのは、皆さんが当たり前だと感じ

ている、ご飯が食べられない拒食症と、保育園や学校に行けなくなる不登校です。

ヒデキ君は、当たり前と思われている健康・食欲・登園などができているのですから、まずは、このことに○を付けてあげてください。

少なくとも当たり前前の大切な基本のことができているので、お母さんも子育てに自信をもってください。自分の子育てに○を付けて、子どもの成長に感謝してください。

そして、お母さんと保育園で協力して、時間をかけて、あせらずにヒデキ君の×の部分減らし、○を増やすように努力しましょう。大丈夫ですよ」と、30分から1時間をかけて、お母さんの不安やグチなど聴きながらカウンセリングするのです。

残念ながら、私たちは、×の2と○の2には注目するのですが、当たり前と考えている（しかし、本当は大切な）6の部分には注目しない傾向があります。

この事情は、保育の現場でも見られることです。皆さん、自分の担任している子どもたちの名前をすべてあげてみてください。まずあがってくるのは、いろいろと保育士を困らせたり、他児とトラブルを起こす、いわば×の2の子どもたちではないでしょうか。次は、保育士に協力的な○の2に当たる、いい子があがることでしょう。

そして、最後に、ノーカウントの6に当たる、目立たない、おとなしい、しかも、ほとんど問題のない子どもたちの名前がでてくるのが一般的です。

しかし、その子どもたちこそ、磨けば光る宝石の原石ではないでしょうか。そんな、目立たない・おとなしい子どもたちに、上手に褒めたり、励ましたり、タイミングのいいボディランゲージやスキンシップなどをあげて、元気で明るい積極的な子どもに育てあげることが、いい保育士の大切な資質であり、喜びではないかと、私は考えています。

# 保育の玉手箱



担当／南大阪ブロック

## 「幸せの小鳥」

幸せの小鳥が舞いおりてきました。

「なんてすてき!!!」と早速、見よう見まねで作りました。

すると、子どもや職員からも「かわいい!!!」と……。

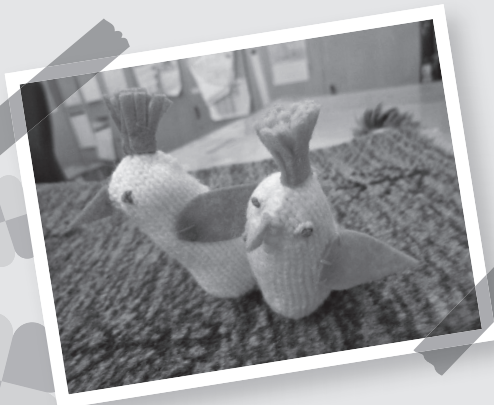
そこで、職員に手伝ってもらって一羽一羽手作りで、色とりどりのかわいい小鳥が出来上がりました。

そして「木の枝に小鳥たちをとまらせてあげたい!!!」と、とまり木も作りました。小枝は色とりどりの小鳥たちでにぎやかに。

一歳児の子どもに「どの色の小鳥が好き?」と尋ねると「あか」とかわいく返してくれ、とまり木に小鳥をとまらせてたり、外したりと楽しんでます。

また、校区福祉委員会の皆さまが活動されている地域子育てサロンに紹介すると、とまり木と小鳥たちを遊びに取り入れて、楽しんでおられます。

色とりどりの小鳥たちはみんなを笑顔にしてくれて、たくさんの幸せを運んで来て来てくれています。



## 編集後記

「なんで、こんなにあついのん」と外から聞こえる、年長児の女の子の声に「ほんまやねー」とおもわず相づちを打ってしまふほどの猛暑日が続いた、7・8月。新型コロナウイルス、RSウイルス、そして熱中症に注意しながらの生活。

そのような中でも常に前向きで、プール、水あそびに歓声をあげ体いっぱい表現。また、かぶと虫の飼育ケースに頭をつっこみ、ひたすら見つめるじつくり時間。その姿に、子どももついでいいなあと童心にもどりの暑さを忘れる癒やしのひとときでした。コロナ禍の3年、子どもの成長期の3年はとても大事なのでその影響が気になります。過酷な夏を乗り越えたくましく育った子どもたち、実りの秋を迎え、たくさんの方の行事を心おきなく楽しめるよう願うばかりです。

(H・K)

